

Topic

COLUMN: クリスマス会、みんなで目いっぱい楽しみました!

小幡 翔太郎 (関目教室)

新年あけましておめでとうございます。新年一発目の記事はお正月について…ではなく、昨年末に行われた、クリスマス会の様子をお伝えします。クリスマス会と言えば、『一年間頑張ってきた証である点数券』を使って楽しむお祭りです。フランクフルト、たこせ



▲怪しいハカセもやってくる!

ん、ミルクせんべい、ジュース、ラーメン、駄菓子、射的等のゲーム…などなど、令和の時代にどこか昭和なお店が並び、おいしいものをおなか一杯食べ、元気に一年を締めくくります。



▲お店の準備も子供達で行います。「コーラは値上げしようかな…?」

そんなカイチのクリスマス会の特徴は「子供達による自主運営」。先生が材料や機材は用意しますが、運営の主役は最高学年となった小学6年生達。教室全体の飾り付け、お店の準備(点数は何点にするか、味付けや量はどうか、どうやって宣伝するか…? などなど)も含め、運営を任せられます。「1部では20点で売ってたけど、2部からは値上げしようかな?それともセットで安くしようかな…?」「先生見て、新しい

ゲーム考えたぞ!」などなど、みんな商魂たくましい(笑)。たくさんあった商品も、どんどん捌かれていきました。

クリスマス会の最後は、毎年恒例の大ビンゴ大会!どこかで見たことがあるキャラクターに扮した井上先生…もとい、イノウエもんにより放たれる、大量の飴!子供達から歓声(悲鳴?)が上がり、ビンゴ会場のボルテージは一気に上がります。目玉となる景品をゲットできた子も、リーチばかりで全然当たらない子も、令和元年最後のイベントを心の底から楽しんでくれたことと思います。来年のクリスマス会も、是非楽しみにしててくださいね!!



▲ビンゴで大当たり!やったね!イノウエもんから商品ゲット!!



▲うまいやで~~~~!!



高木のちょっとイイ話

TEACHER'S VOICE 高木 奈穂子 (古市教室)

目標に向かい努力する子供達を今年も見守っていきます。

新年あけましておめでとうございます。古市教室の高木奈穂子です。

昨年12月7日に行われた珠算競技大会において古市教室は3年連続の総合優勝を果たすことができました。この快挙は生徒達の並々ならぬ努力の賜物であったと思います。各学年の代表を決める予選から実力が拮抗し、混戦となりました。

昨年は代表に選ばれたのに今年は惜しくも予選通過できない生徒も何人かいました。そんな中で、都合が悪いなどの理由で辞退者が相次いだ1年生。初めての競技大会でいったい何をすればいいのかわからないまま練習が始まりました。毎回、川西先生の指導のもと、プリン

ト練習を行い、読上算・読上暗算の練習をしました。毎回家で宿題をやってくる子、保護者の方のご協力のもと読上算・読上暗算の練習をした子、それぞれが緊張の面持ちで大会に臨みました。

各学年、入賞できずに悔しい思いをした子もいたと思います。ですが、僅かな期間とは言え、ひとつの目標に向かって努力したことは決して無駄にはなりません。

毎月末に行われる検定、4ヶ月に一度の上級検定、年に一度の競技大会、こういった目標に向かって日々コツコツと練習する生徒達を今年も見守っていただけたらと思います。

本年もどうぞよろしくお願いいたします。



- 1月25日(土)(準会場)、26日(日)(本会場)は英検のテスト日です。TK・中学英検のみんな全員合格目指して頑張りましょう。
- 1月29日(水)・30日(木)は小4~中2の診断テストを実施します。
- 2月1日(土)・8日(土)は新年度合同入塾説明会を実施します。入会をご希望の方は是非ご参加ください。
- 2月10日(月)は私立高校入試日です。受験生のみんなガンバレ!

カイチからのお知らせ

Growing

生徒と保護者と先生の共育ニュースレター

January 2020 Vol. 89
毎月10日発行

【本部】 城東区今福西2-1-8モデラートWASHIMI 201 TEL.06-6939-0008	【今福第2教室】 城東区今福西 2-16-8 TEL.06-6931-2000
【今福教室】 城東区今福西 2-9-20 TEL.06-6934-4662	【関目教室】 城東区関目 4-6-17-2F・3F TEL.06-6934-8117
【諸口教室】 鶴見区諸口 4-14-9-1F TEL.06-6912-3984	【古市教室】 城東区古市 3-21-8 TEL.06-6931-0467
【今津教室】 鶴見区今津南 1-6-2-1F TEL.06-6167-9722	【エニグマ】 中央区谷町 9-4-5-3F TEL.06-6777-1563
【カイチ予備校】 城東区今福西 1-10-17 TEL.06-6935-2220	【万緑会】 天王寺区上本町 6-9-10-3F TEL.06-6772-5011



高木 秀章(塾長)

あけましておめでとうございます。 今年もよろしくお祈りします。 競技大会、古市教室3連覇おめでとう!

あけましておめでとうございます。今年十二支の1番目の「子年」。次に子年を迎えるときには、もう私も60才になってしまいますから、何か先のことも考えて「ああしたい」「こうになりたい」みたいなことを考えるのもいいなと思っています。受験生の皆さんは年が明けて、冬の寒さと新年の雰囲気、そして「いよいよ入試」という気持ちが混じり合った、ピーンとした緊張感を感じているのではないのでしょうか。私立入試まで、あと1ヵ月。最優先すべきは体調管理です。今、怖いことは体調を崩して勉強の予定がずれて焦ること。今月末には学年末テストがあり、私立赤本もあって忙しい。忙しいのはわかっていますが、無理せず早寝早起きを意識して体調管理を万全にしておくこと。1日1日を手で握りしめるように、大切に過ごしてください。

第15回珠算競技大会

昨年12月7日(土)に珠算競技大会がありました。優勝は古市教室。なんと3連覇。最高得点賞は古市教室の幡奈々佳さん、読み上げ算と読み上げ暗算のカイチNo.1は兵頭香伶さんが獲得しました。古市教室のみなさんおめでとう!そして、選手の皆さんお疲れ様。



▲古市教室3連覇、おめでとう!!

大会冒頭のスピーチで川西先生が「この競技大会も15回目。伝統ある大会になってきました。」と話していましたが、最初は今福と古市の2教室で始まりました。私は今福の担当で、とにかく父親の健先生の古市教室に勝たなかったのを覚えています。振り返れば、昔、健先生の指導にどうすれば追いつけるのか、夜中に古市の教室にこっそりスパイに行ったこともありました。最初の4回は今福が連敗。そこから今福の優勝が続き、そして古市の3連覇。

この大会も今はカイチの5教場、各教室の代表およそ100名、スタッフの先生15名が参加する立派な大会になりました。



▲会場の様子。みんな真剣そのもの。

私が古市をスパイしていた時代?!は「6年生が10億円の読み上げ算を正解できた、1年生が1万円を正解した」と先生たちで驚いていました。それが今や、読み上げのトップ選手たちは10京~10億円の桁違いの読み上げ算を正解し、小学1年の子も10京の5口を正解してしまいます。読み上げ暗算の

チャンピオンの兵頭さんは100万円台の読み上げ暗算を正解、練習では1000万円台も正解していました。

子供達の成長は凄まじい。「もっと子供達を伸ばせるのではないか?」競技会の度に思うことです。

後述の教室紹介で近久先生が「ノミの天井」の話を書いています。ノミたちも狭い虫かごに入れられると、やがて高くジャンプできなくなる。もし、制約を外すと子供達はもっと高く飛べるのでは。私達大人の「子供だから…」という固定概念が子供達の制約になっているかもしれません。

また、「自由」や「のびのび」が横行して、昔ながらの「鍛える」という気持ちを忘れてしまっていることも問題かもしれません。

先日の世界的学習到達度調査PISAの結果で日本の子供達の読解力低下が問題視されています。諸外国に比べ読書離れが進み、長文が書けるメールの利用頻度が低下し、LINEなどチャットの利用率が大幅に高くなっていることも原因ではないかと言われています。そんな中、文科省は大学入試の記述式問題の導入を取りやめてしまいました。

こんな時代だからこそ、「子供達の可能性を信じて鍛える指導」が必要なのではないかと強く感じます。私たちカイチも、もう一度原点に戻り、そんな塾を目指していきたいと考えています。

皆様の期待に応えるだけでなく、皆様に期待される塾に。今年も1年宜しくお祈りいたします。

カイチ高殿教室3月開校

少しだけ宣伝です。3月より関目高殿の交差点南西側に開智総合学院高殿校が開校します。もと銀行のテナントの2階ということでもきれいな建物で広さも60坪と大きな校舎です。この教室では、小学5年生~中3までの学習塾をはじめ、珠算・パスカルキッズ・トーキングキッズを開校いたします。もし、お近くにお知り合いなどがいらっしゃる場合は是非ご紹介ください。



▲関目高殿交差点南西側焼き肉屋さんの2階です。

▲工事はこれから、60坪の大きな教室になります。

Focus

CLASSROOM REPORT 教室レポート



近久 賢治 (今津教室)

トーキングキッズの1年を振り返って

新年を迎え、寒さも一層厳しくなってきましたがいかがお過ごしでしょうか。近久です。去年のこの時期にも新トーキングキッズ(以下TK)クラスについて書かせていただきました。早いもので1年になります。今回は、1年を経たTKの現在について書きたいと思います。所帯も大きくなり始め、去年度比で生徒数も多くなってきた中、「英検合格」を目標に日々頑張っています。お陰様で今年度2回の英検5級の合格率は87%となり、4級・3級勢も70%以上の合格率と結果も上々です。何よりも子供達の頑張りに頭が下がる思いです。



▲TKの企画・立案は私たち3人と塾長で行っています。

TKでは今年度より日本人講師による授業部分を講義形式にし、よりスローステップで一つの単元を学びやすくしました。英検のはじめの一步である5級内容でさえ、「be動詞と一般動詞の違い」や「3単現」など、自力で進めるには難しい単元が存在する中、講義や発問指導により、しっかりと理解していただくのが目的です。これらの単元を習得しておくことは英検のみならず、中学英語を完璧に理解するためには土台となる部分です。まだ完全にできているとまでは言えませんが、前年度よりは定着してきているように感じます。これから更に工夫していきたいと思います。

また、「スピード感」を重視し、座学になりがちな授業内容を一新し、単語ゲームや瞬間英作文ゲームなど、子供たちが能動的に動けるような内容で今年度は授業を行いました。

そのかいあってか、子供達が「とりあえず口に出す」習慣ができてきたように思います。

英単語ゲームでは「expensive」「junior high school」など5級では難読な単語を即答できる幼稚園年長の子が現れたり、瞬間英作文ゲームでは、わずか半年で4級の例文を全て順番通りに暗記してしまう子も現れたりしています。「私は何冊かの本を借りに図書館に行きました。」という長めの文章でさえ、「I went to the library to borrow some books!」と即答し、周りの子供たちも負けじと続くという、実に良い雰囲気。毎回スピーキングクラスに負けないうらい熱量のある授業を行っています。



▲子供達は長い英文を読むのに燃えています。

1年間見て感じたことは「難しい(長い)英文の方が子供達は燃える」ということです。単語が難しく、長い文章であればあるほど、子供たちの食いつきが全然違います。

理由は「誰よりも早く、正確に言えたらカッコイイから」だそうです。授業後も決め台詞のように大声で長い文章を暗唱する子供達を見て、心強くなるのと同時に、過去にお世話になった先生から聞いたこんな話を思い出しました。



▲子供達の中で限界を作らせない指導が理想です。

「ノミの天井」というお話をご存じでしょうか。ノミを飼育ケース内で育てると、ノミの生来備わったジャンプ力で跳ぶ度に確実に天井に叩きつけられることになり、何度も痛い思いをする内に、小さく跳ぶことを学習してしまうのだそうです。

しばらくその環境で育て続けると、箱の天井をなくしても、本来のように高く跳ぶことはできません。つまり、ノミの失敗経験によって元来備わっているジャンプ力が失われてしまうというお話です。こうなると「天井はもうないよ」と教えてあげられることができたとしても、もうずっと跳べないままです。

これを人間の場合に置き換えると飼育ケースとは「環境」であり「常識」です。生来のジャンプ力は「才能」。ジャンプは「挑戦」。天井にぶつかるのは「失敗」と「苦痛」。小さく跳ぶようになるのは「学習」。天井をなくしても跳べないのは「恐怖」による「限界」の自己設定。

幼稚園生・小学校低学年だからという「常識」に縛られて「限界」を作らせてしまっただけではない、と感じた次第です。日々「挑戦」できる場を用意すべく、これからは英語を幅広く学び、中学・高校入試に、ひいては社会に出た後にも役に立つ勉強の姿勢を作られる環境づくりのため、日々精進してまいります。ひとまずは来年度にももう少し長く難しい単語を使った文も用意しようかな、と考えています(笑)。



▲みんな元気一杯です。

Education

KAICHI'S ACTIVITY カイチの教育



熊谷 真宏 (カイチ予備校)

2020年度大学入試改革のドタバタ

2020年度の大学入試改革

ニュース等でご存知の方も多いかもかもしれませんが、大学入試では2020年度(今の高校2年生の学年)からセンター試験が廃止され、「大学入学共通テスト」という新しい試験制度となります。この大きな改革における柱が、

- ① 民間英語検定試験の活用
- ② 記述問題の導入

の2つとなるはずでした。ところが、萩生田大臣の「身の丈」発言からはじまる一連の騒動の中で、11月に①の民間英語検定の中止が、12月に②の記述問題の中止が発表されました。「延期」という表現で発表されていますが、実質的には「中止」と考えてよいでしょう。

①の民間英語検定は、英検等の民間試験により「聞く・話す・読む・書く」の4技能を評価しようというものでした。国際化の中、誰が見ても正しい方向性ではありますが、「受験料」「地方における受験会場」など、公平性の担保が問題でした。

②の記述式問題は、国語、数学において記述問題を導入するというものでした。受験生の知識だけでなく表現力も問うという面で、意味のあるものですが、採点ミスをゼロにできないという点が問題でした。

本当の問題点

今回のドタバタの中で、多くの教育関係者が感じたのが、「文科省の動きが悪い」という点でした。大学入試の制度改革のような仕事は、「早急に対応が必要」というような種類のものではありません。「災害が発生したから、1時間で対応を検討し、半日のうちに何らかの動きだしを開始せねばならない」というようなものではないのです。

落ち着いて検討を行い、やるべきことを明確化し、期限を決めて1つずつ着実に実行する、そういう仕事です。「地方の受験会場」も「採点ミスの可能性」も検討当初から指摘されていた内容だったのに、土壇場までぼたぼたにされているというのは、業務遂行能

力が低いと言わざるを得ません。「記述試験における採点ミスの可能性」が「桜を見る会の参加者名簿」と並んでニュースで扱われていること自体が大きな失態です。

責任の所在

かつて、「ゆとり教育」が失敗だとわかった際、「誰の責任だったのかよくわからない」ということがおきました。今回の件については、「どの時点における判断がまずかったのか」をはっきり検証すべき事案です。

今回、萩生田大臣が「責任は私にある」というような発言をしていましたが、いざぎよいというより、むしろ卑怯です。必要なのは現職大臣の謝罪ではなく、10年以上の時間をかけて検討してきた大学入試改革で、どのタイミングにおけるどの仕事が決まらなかったのかを冷静に分析する態度です。

アルバイト採点者

今回、「記述問題の採点をアルバイトが行う可能性があった」ということが、ニュースでは大きな問題として取り上げられています。気持ちはわからなくはないのですが、大規模テストにおける採点においては、長年教壇に立っている先生よりもアルバイト採点者の方が公平性を担保できる、という事象が発生します。この点は意外に思われるかもしれませんが、「50年高校で国語を教えていた先生」を集めてくると、教科に対するこだわりが強すぎて採点基準が統一できなくなるものなのです。「字のうまい下手は採点対象としない」と決めていても、「長年の指導経験から、私は字が汚い答案は絶対減点する主義だ」というような採点者が出てきてしまうのです。

テストに対する期待

テスト(試験)に何を期待するか、というのは、その国の文化によって大きく異なるものです。一般に、日本を含む東アジア文化圏では、「異常なまでの公平性」を求められること

が知られています。年間数千人の交通事故の死者数は許容しても、50万人の受験者の中に1人でも採点ミスがあると「それはダメだ」となるのです。

今回、この面に対する配慮も足りてなかったように思われます。

カイチ予備校において

入試制度の変わり目では、必ず「ドタバタする学年」というのが出てくるものです。ただ、今回のドタバタはひどすぎます。最も気の毒なのは、振り回される現場の高校の先生方、そしてなにより当該学年の生徒達です。

本稿の執筆時点(2019年12月18日)で、2020年度の大学入学共通テストについて、まだ不透明な部分もあります。該当学年である今の高校2年生は、本当に大変な時期に大学入試を経験することになってしまいました。

ただ、カイチ予備校には、大手受験情報誌で執筆をされていた先生、英語の検定で採点基準を作成されていた先生、全国の大学関係者・高校関係者と常に情報交換をされている先生など、様々な先生方がおられますので、情報面でも万全のサポートを行っていきます。この面で、大手の予備校に全くひけをとらない、むしろ大手の予備校よりも高い受験情報分析力を持っていると自負しております。

今の高校2年生、1年生には、制度変更により振り回されずに落ち着いて受験勉強に励んでいただきたいと思います。

